

2022年6月期第2四半期決算説明資料



上場市場 : 東証第一部 札証
証券コード : 9450

 **2022年6月期2Q決算実績**

 **2022年6月期通期決算見通し**

 **トピックス**

Appendix

1

2022/6期2Q実績：9%増収15%経常減益

- ✓ 主力のホームユースが堅調を維持する一方、ビジネスユースは苦戦という構図は変わらず。本社管理費増も重石に。
- ✓ ただし、1Q時点の30%減益からは急速に持ち直し。ホームユースの堅調、ビジネスユースも緩やかながらも回復傾向は鮮明

2

2022/6期通期見通し：26%増収12%経常増益

- ✓ 従来見通しは据置き。3Q以降にホームユースではIPカメラやIoT関連が、ビジネスユースでは人流回復効果が、それぞれ牽引との想定継続
- ✓ リスク要因はコロナ禍再燃による人流停滞や半導体不足に伴う部材原価上昇など。ただし、現時点で原価上昇はある程度見通しに織込済

3

トピックス



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

2022年6月期2Q決算実績

- 前年比9%増収、15%経常減益。主力のホームユースが堅調を維持する一方、ビジネスユースは苦戦という構図は変わらず。本社管理費増も重石に。ただし、1Q時点の30%減益からは急速に持ち直し
- 通期見通しに対する進捗率は約4割。下期偏重型想定に変更なし。懸念材料はホームユースの競争激化

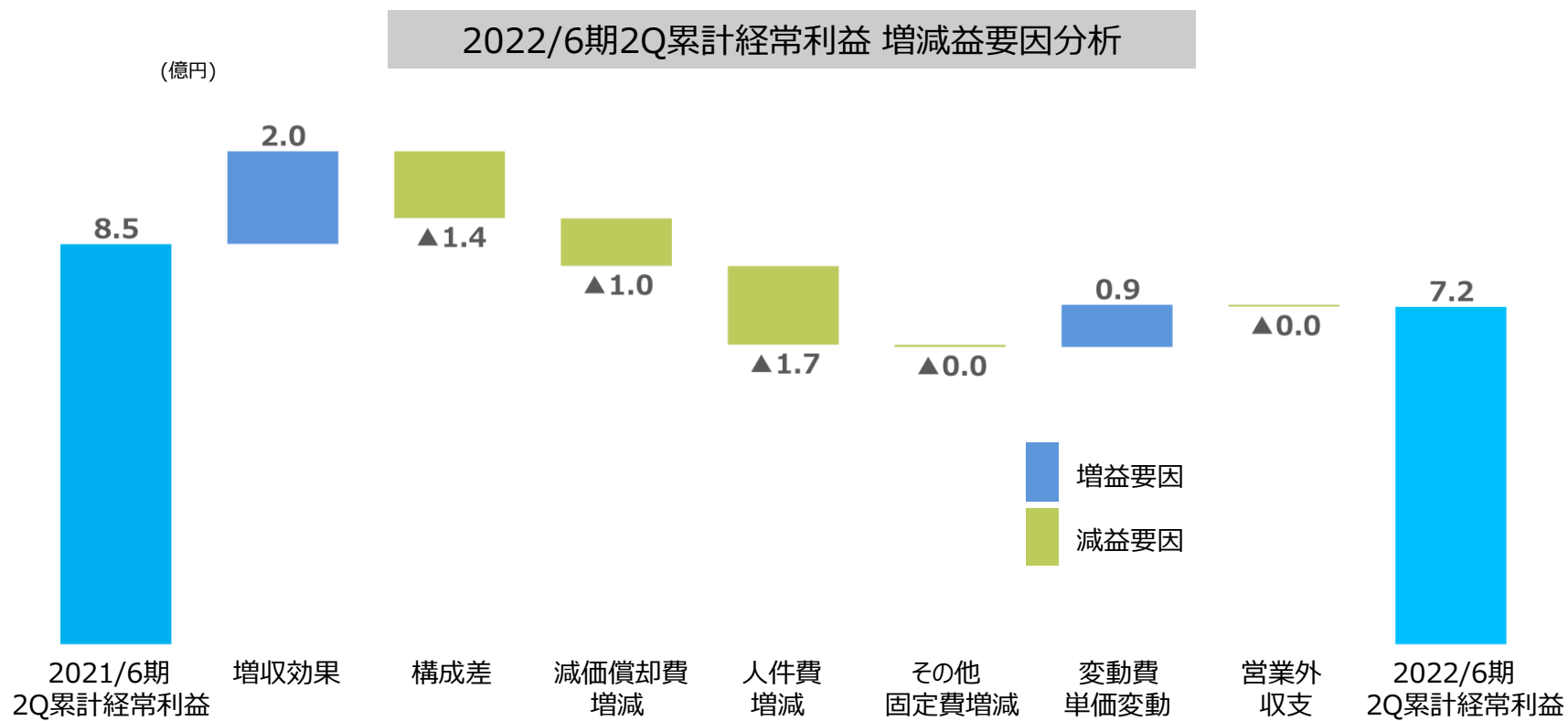
(百万円) 百万円未満切り捨て 0.1%未満四捨五入	2021/6期 2Q実績	2022/6期2Q			2022/6期通期	
		実績	前年差異	前年比	見通し	2Q進捗率
売上高	4,177	4,582	+404	+9.7%	10,750	42.6%
ホームユース	3,374	3,907	+532	+15.8%	8,630	45.3%
ビジネスユース	800	594	▲206	▲25.8%	1,600	37.1%
その他	2	80	+78	36.4倍	520	15.5%
営業利益	863	734	▲129	▲15.0%	1,770	41.5%
ホームユース	931	1,063	+132	+14.2%	2,270	46.8%
ビジネスユース	293	129	▲163	▲55.7%	610	21.3%
その他	1	4	+3	3.9倍	▲20	-
調整	▲362	▲463	▲100	▲27.9%	▲1,090	42.5%
経常利益	852	719	▲133	▲15.6%	1,730	41.6%
経常利益率	20.4%	15.7%	▲4.7pp	-	16.1%	-
当期純利益	564	481	▲83	▲14.8%	1,180	40.8%

- 2Q単独では対1Qで増収増益。対前年でも経常利益はほぼ前年並みを回復。ストック積上げからホームユースの堅調が増収増益が改善を牽引したうえ、ビジネスユースも緩やかながらも回復傾向は鮮明に
- 2Qの経常利益率も回復。1Qにあった収益認識基準適用に伴う契約変更の影響が一巡し、通常ベースに回帰

(百万円)	2021/6期				2022/6期		1Q/2Q 比較	前2Q/2Q 比較
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
売上高	2,128	2,048	2,223	2,090	2,258	2,323	+65	+275
ホームユース	1,713	1,661	1,914	1,777	1,930	1,977	+46	+315
ビジネスユース	415	385	304	248	257	336	+78	▲48
その他	-	2	4	64	70	10	▲59	+8
営業利益	407	455	421	274	288	445	+156	▲10
ホームユース	443	487	523	416	451	611	+160	+124
ビジネスユース	152	140	65	82	53	76	+23	▲63
その他	▲0	1	0	4	0	3	+2	1
調整	▲187	▲174	▲167	▲229	▲216	▲246	▲29	▲72
経常利益	402	449	416	274	279	439	+159	▲10
経常利益率	18.9%	21.9%	18.7%	13.1%	12.4%	18.9%	+6.5p	▲3.0p
当期純利益	273	291	261	193	182	299	▲116	+7

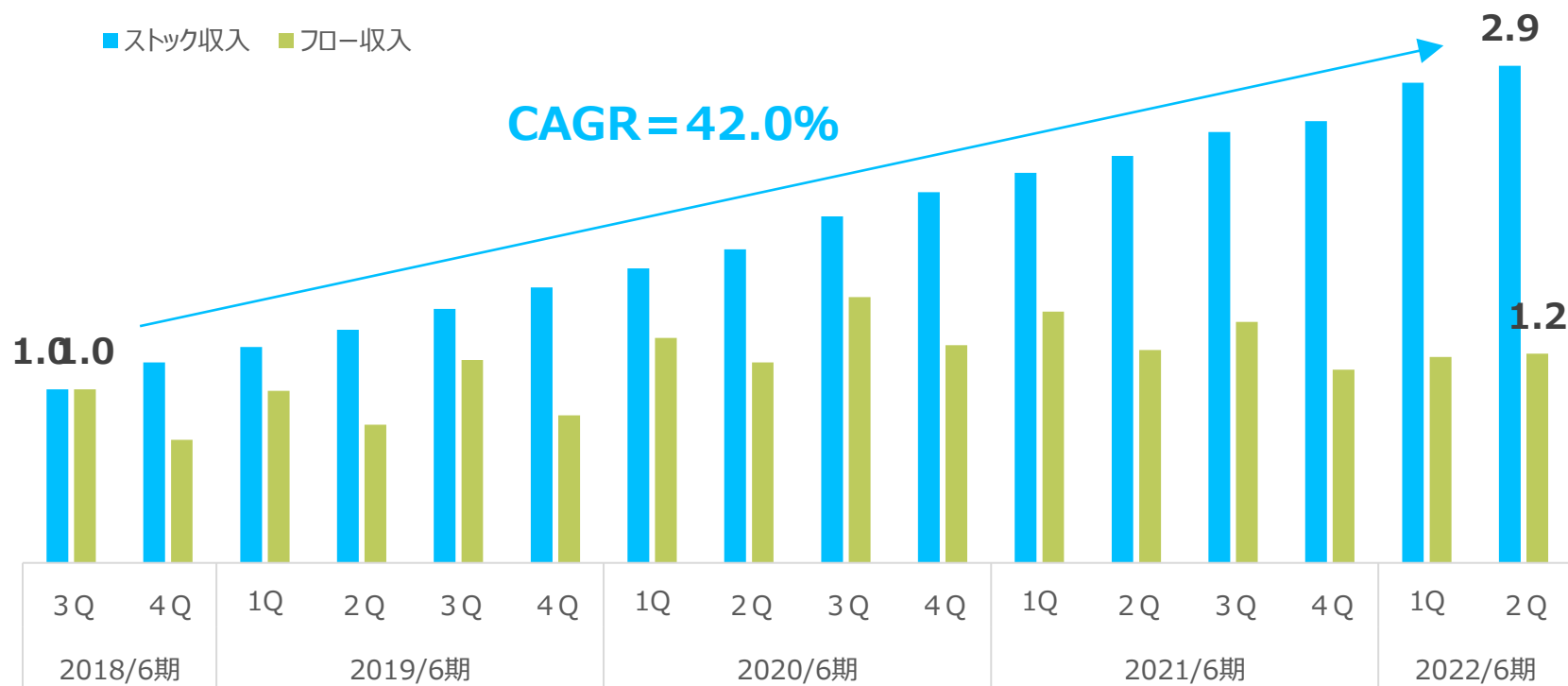
*百万円未満切り捨て、0.1%未満四捨五入

- 2Q累計経常減益の主因は、新会計基準に伴う一部契約変更や人件費の増加など。ホームユースを牽引役とした増収効果やトラフィック増に対応した通信回線の効率運用では吸収できず。この構造は1Q時点と変わらず
- なお、1Q対2Qの経常増益1.6億円は、主として契約変更の影響一巡が大きく貢献



- ストック収入は上場以来15四半期連続で拡大。2Q実績は2018/6期3Q基準で2.9倍に
- 2018/6期3Qからの成長ピッチも年率42%と高水準を維持。契約戸数の積上げが奏功。ただし、レジデンス契約の競争は着実に激化しており、一段の成長ピッチ加速に向けての布石は今後の課題と位置づけ

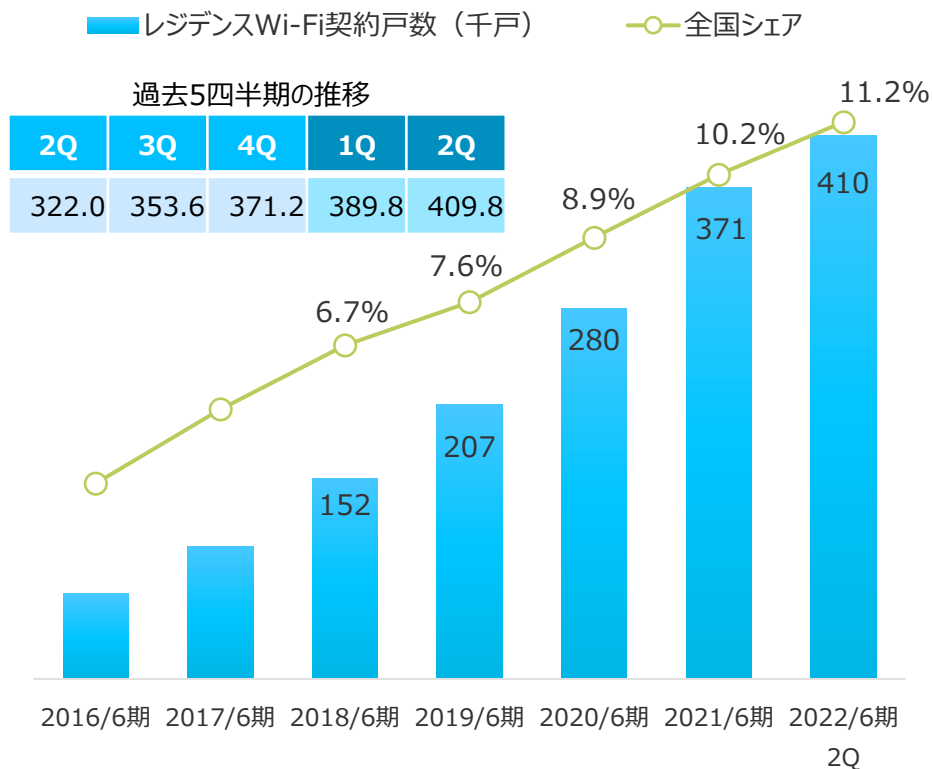
ストック収入・フロー収入の四半期推移



注) 2018/6期3Q=1 として指数化。小数点以下の差により、同じ数値表記にもかかわらず、見かけ上グラフの高さに違いが生じることがある
 この収入内訳は当社定義に基づく連続性のある比較数字であり、収益認識基準下における期間按分売上などは厳密には異なる

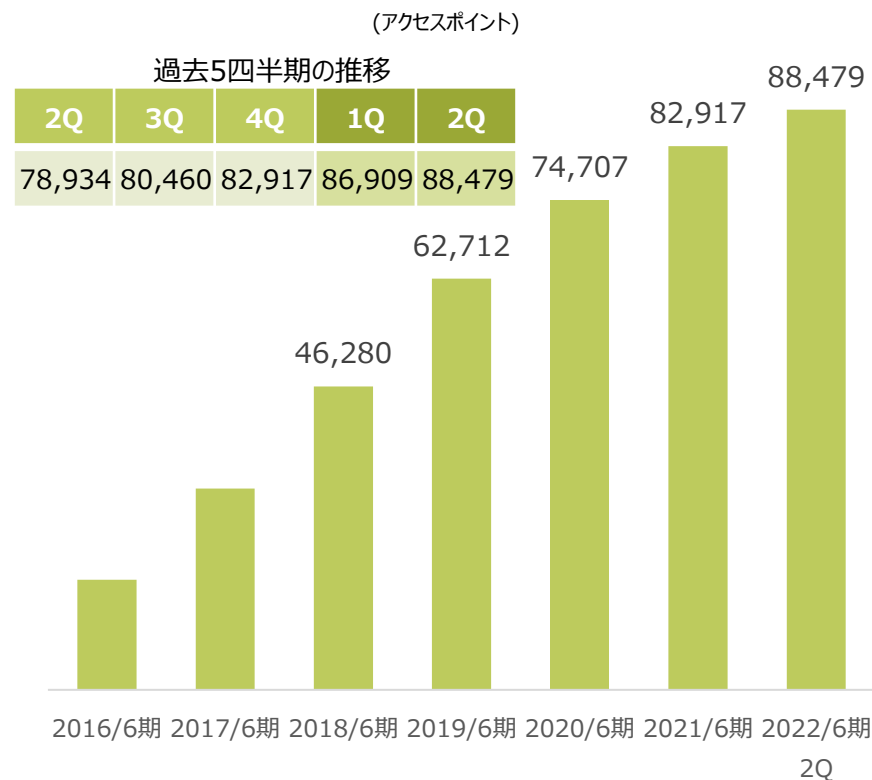
- レジデンスWi-Fi契約戸数は2Q末で約41万戸。リモートワーク浸透や新築アパート向け拡販により契約戸数を着実に積上げ。一方、既築アパート向けは潜在市場の顕在化進み、徐々に拡大ピッチは鈍化
- フリーWi-Fiのアクセスポイントは8.8万ポイント。人流回復あるも、Wi-Fi設置需要はやや遅行気味

レジデンスWi-Fi契約戸数と全国シェアの推移



*全国シェアはMM総研発表による全戸一括型マンションISPの提供戸数総数（各3月末現在）を当社会計年度末（もしくは直近四半期末）の契約戸数実績で除して算出

フリーWi-Fiアクセスポイント数（注）推移



（注）当社の認証システムを利用しているアクセスポイント数

連結決算概要(貸借対照表)

- 自己資本比率24.9%。収益認識基準適用により純資産一部が契約負債振替となり、前期末比低下
- 科目別には在庫勘定の増加が継続。供給不安ある電子部品は引続き厚めの保有とする方針。純有利子負債は約30億円（前期末の純有利子負債は約23億円）

(百万円)	2020/6期	2021/6期	2022/6期 2Q	2021/6期 比増減
流動資産	2,795	3,920	4,336	+416
現預金	1,415	2,196	1,799	▲396
売掛金	1,071	1,234	1,313	+79
契約資産	-	-	185	+185
棚卸資産	272	367	979	+612
固定資産	4,185	5,475	6,442	+967
有形固定資産	4,005	5,246	5,714	+467
総資産	6,984	9,397	10,781	+1,383
負債	4,274	5,720	8,086	+2,366
有利子負債	3,073	4,453	4,731	+278
契約負債	-	-	2,002	+2,002
純資産	2,710	3,677	2,694	▲982
負債純資産合計	6,984	9,397	10,781	+1,383

売上増によるキャッシュアウト先行に加え、厚めに保有していたキャッシュを整理。

収益認識基準適用による影響

半導体など電子部品は厚めの保有継続

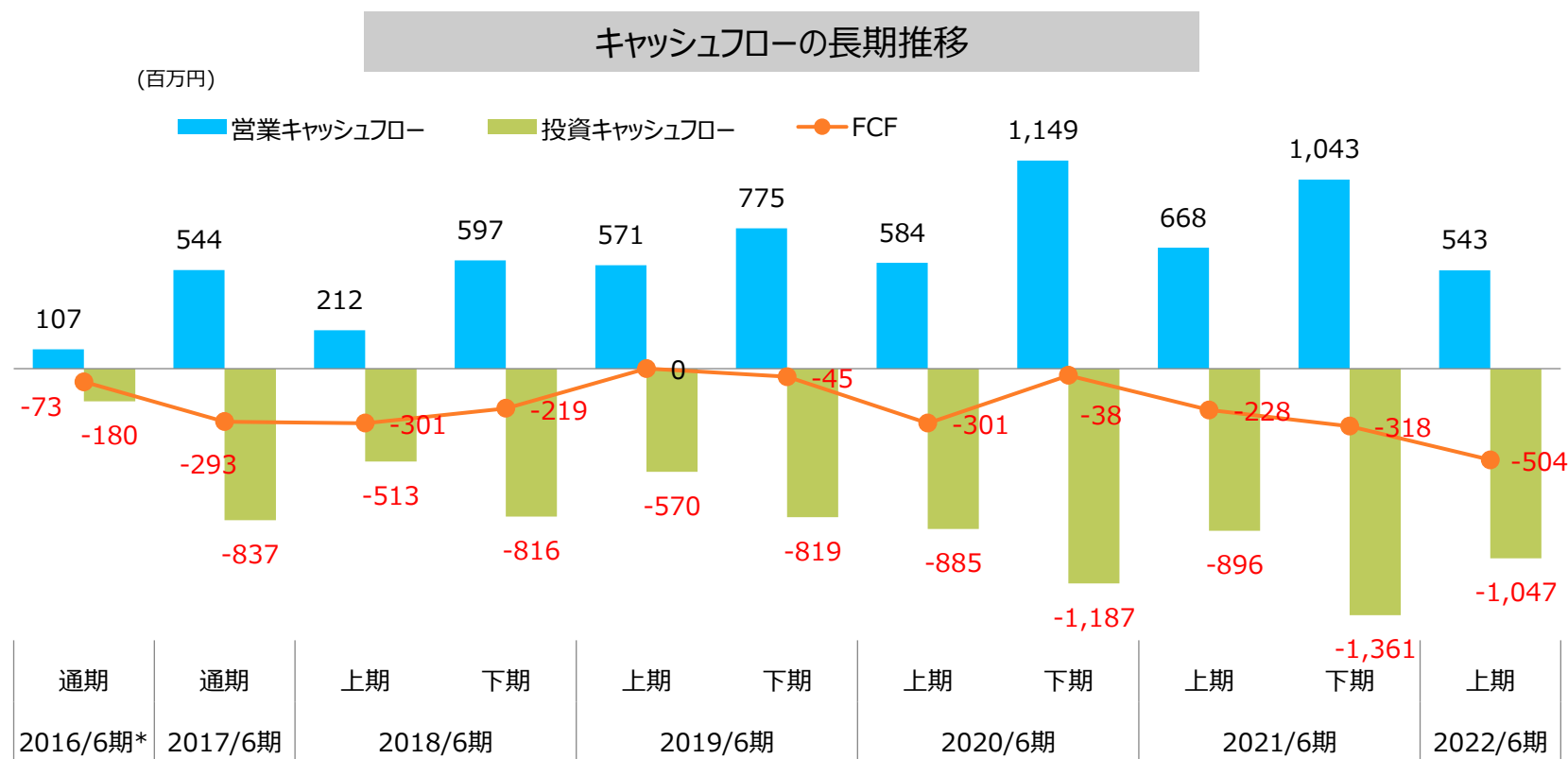
純有利子負債 30億円

収益認識基準適用による影響

自己資本比率24.9%
新基準適用で大きく低下

*百万円未満切り捨て、0.1%未満四捨五入

- 2022/6期2Q累計のFCFは5.0億円の赤字と、半期ベースでは過去最大。事業拡大に伴う先行キャッシュアウトが継続しているうえ、半導体不足対応などの在庫積増しが影響。ただし、資金繰りに問題はなし
- 半期ベースで時系列推移を見ると、3半期連続でFCFの赤字幅は拡大。キャッシュアウト先行型事業構造であり、FCF赤字は顧客獲得が順調な証左ながら、今後は赤字幅のコントロールにも留意が必要と認識



*2016/6期は6ヵ月決算



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

2022年6月期決算見通し

2022/6期連結決算見通し① 総括表

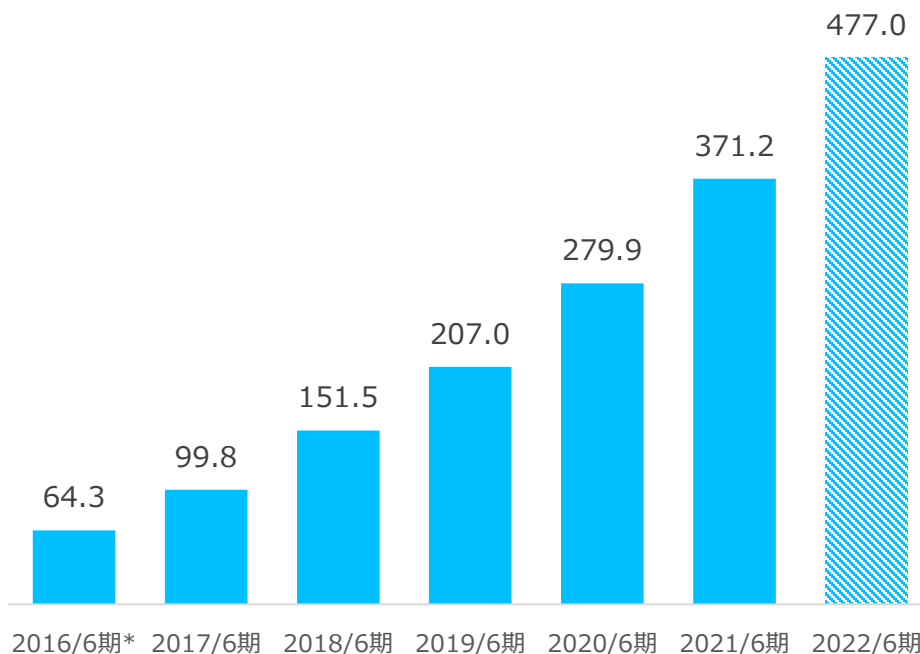
- 通期では従来見通しを据置き、27%増収12%経常増益を想定
- 1Q利益はスロースタートとなったが、2Q利益は前年並みの水準を回復。通常ベースの収益力への回帰進む。今後はカメラ搭載製品などの高付加価値化により、ホームユース主体に伸長を想定

(百万円。百万円未満切り捨て)	2020/6期	2021/6期	2022/6期 見通し	前年比	
				増減額	増減率
売上高	7,424	8,491	10,750	+2,258	+26.6%
ホームユース事業	5,712	7,067	8,630	+1,562	+22.1%
ビジネスユース事業	1,712	1,353	1,600	+246	+18.2%
その他	0	70	520	+449	7.4倍
営業利益	1,234	1,559	1,770	+210	+13.5%
ホームユース事業	1,484	1,871	2,270	+398	+21.3%
ビジネスユース事業	507	441	610	+168	+38.2%
その他	▲1	6	▲20	▲26	赤転
調整	▲755	▲759	▲1,090	▲330	▲43.5%
経常利益	1,215	1,543	1,730	+186	+12.1%
当期純利益	722	1,019	1,180	+160	+15.8%
* <前提>					
レジデンスWi-Fi契約戸数 (千戸)	279.9	371.2	477.0	+105.7	+28.5%
フリーWi-Fiアクセスポイント数 (千AP)	74.7	82.9	84.7	+1.7	+2.2%

- レジデンスWi-Fi累積契約戸数前提も据置き。前年比10万戸超増となる47.7万戸を想定。現状ペースで想定達成は容易でないが、カメラ搭載などの付加価値拡大を軸に契約ピッチの加速を目指す
- 一方、フリーWi-Fiアクセスポイント数前提8.4万ポイントは1Q末で到達済。ただし、現在は商業地からメディカル・観光分野への拡大へ方向転換を進めており、業績との連動性は低下傾向。新たなKPIの検討を開始

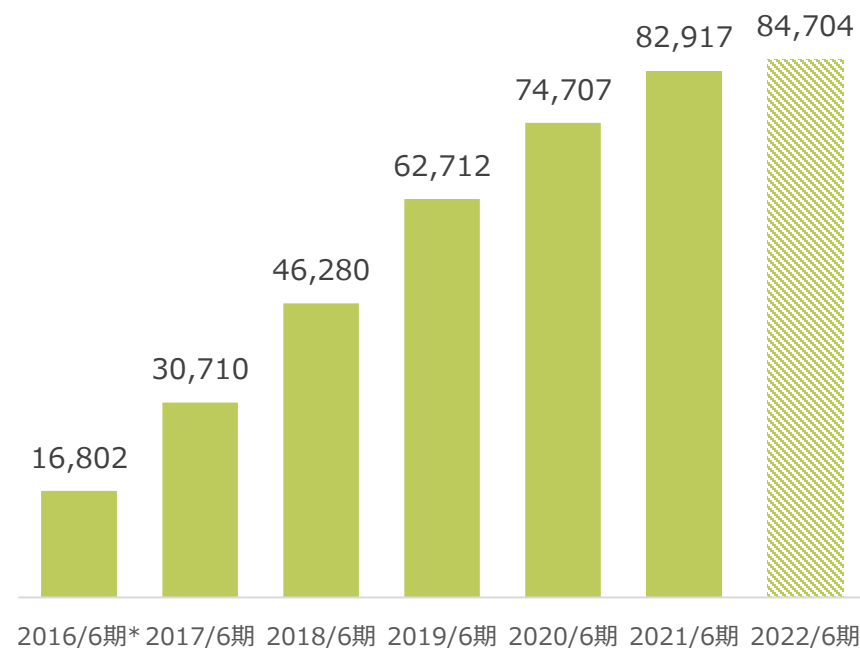
レジデンスWi-Fi契約戸数

(単位：千戸)



フリーWi-Fiアクセスポイント数 (注) の推移

(単位：アクセスポイント)

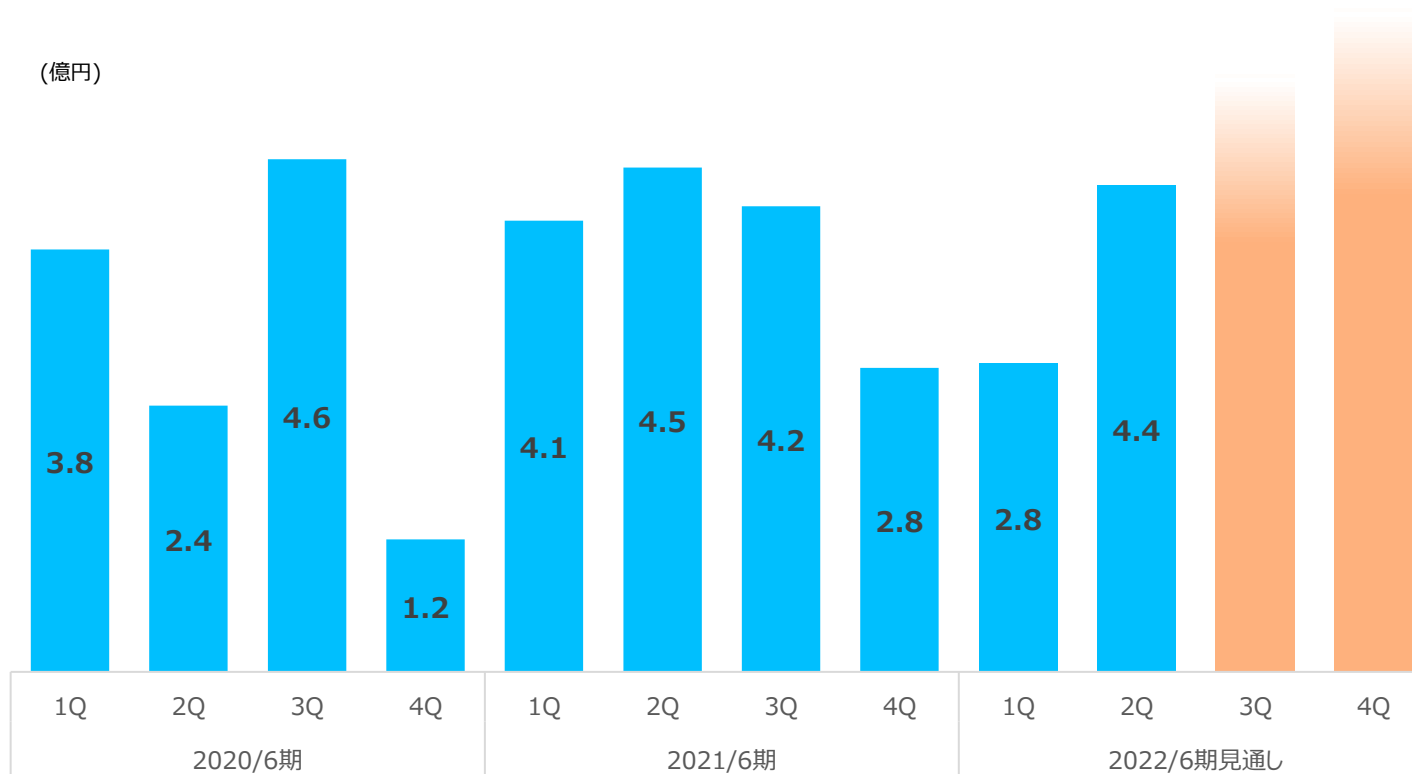


*2016/6期は6ヵ月決算

注：当社の認証システムを利用しているアクセスポイント数

- 2Qは歴史的にも高水準の経常利益を計上。低水準となった4Q、1Qの調整局面を経て、今後はより高い水準の利益計上を想定
- リスク要因は、コロナ禍再燃による人流停滞や半導体不足に伴う部材原価上昇などを想定。ただし、現時点で原価上昇はある程度見通しに織込済

四半期別経常利益の推移イメージ



- 3Q以降は収益拡大ピッチの加速に注力。顧客ターゲットの拡大にシフト。ビジネスユースでは従来の商業地向けからメディカル、観光領域をターゲットに設定し、既に実績も順調に蓄積
- ホームユースでは新サービス拡販や非大口顧客開拓、新築アパートの獲得などを展開。新築案件増は納期長期化から当期業績にすぐには結び付かない公算大きい、需要構造の変化への布石として対応推進

ホームユース事業

① IPカメラ/IoT製品

- ✓ 下期より、IPカメラ/IoTといった高付加価値サービス本格化

② 中小アパートなど非大口顧客開拓

- ✓ 賃貸住宅におけるWi-Fi環境ニーズ拡大
- ✓ 当社源流の中小アパート向けWi-Fi需要の掘り起こしに知見ある営業スタッフを増員

③ 新築アパート

- ✓ 既築アパートのWi-Fi設置潜在市場は顕在化進捗により徐々に縮小
- ✓ 今後はより既築物件から新築物件へ需要の主体がシフトする公算
- ✓ ただし、受注納期は長期化を甘受
(既築案件の受注納期が比較的短期)

ビジネスユース事業

営業推進本部下にビジネスユース営業部を新たに設置
(従来は同本部内に専担部門は非設置)

商業地からターゲットシフトを開始

ターゲット領域

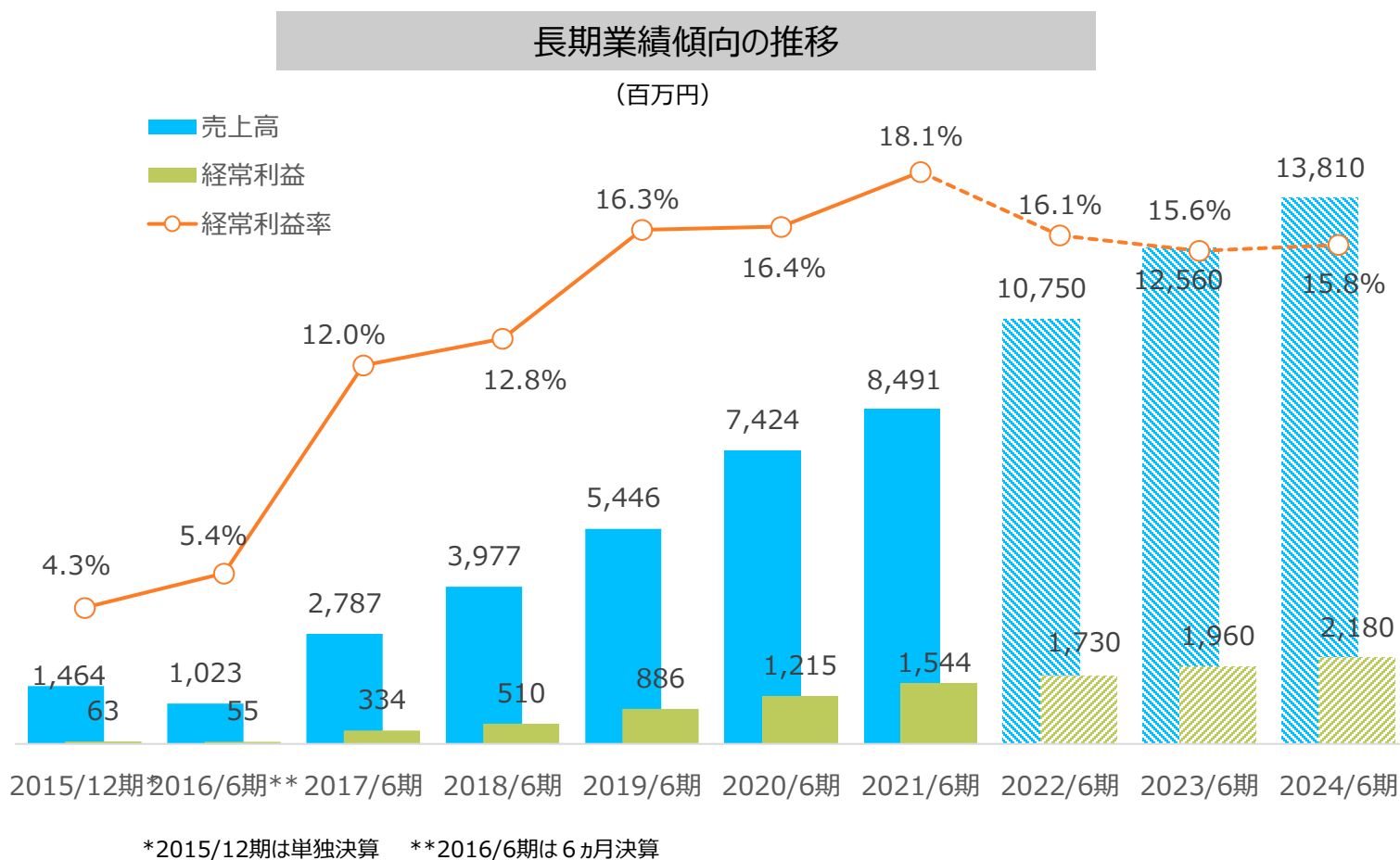
① メディカル領域 **Medical-Wi-Fi**

- ✓ 病院向け無料Wi-Fiサービス
- ✓ 介護施設向けWi-Fiサービス

② 観光領域

- ✓ リゾートホテル向けWi-Fiサービス
- ✓ Wi-Fi BUSサービス
観光バス・貸切バス・高速バス向けなど

- 2024/6期は売上高約138億円、経常利益22億円程度を目標に掲げる
- 2023/6期は従来の中期目標を据置き。収益認識基準適用やウイズコロナ下でのコストアップといった影響はあるものの、ビジネスチャンスの創出やコストコントロールなどで吸収を目指す





Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

トピックス

- 1 新世代型SDGsエコロジーマンション**
- 2 衛星通信Wi-Fi展開（続報）**
- 3 ホームユースWi-Fiを学生寮に展開**

再生可能エネルギー & IoT対応の新世代型SDGsエコロジーマンション建設竣工



<新世代型SDGsエコロジーマンションの特徴>

1. 自家発電自家消費型の太陽光発電システムでクリーンな暮らしを実現
2. FG Home IoTでワンランク上の生活を実現
3. 顔認証システムでオートロック解除 & エレベーターも顔認証で非接触昇降
4. 衛星通信Wi-Fiで災害時でも変わらない生活
5. DDHBOXでサイバーセキュリティ対策
6. 賃貸物件の新たなリーシング手法

通信とエネルギーを通じた
社会課題解決型企業実現のための
一つのアプローチと位置づけ



<物件概要>

- ・建物名称：Reunir Gracias川口
(レユニールグラスias カワグチ)
- ・物件URL：
<https://reunirgracias-kawaguchi.iot-mansion.jp/>
- ・所在地：埼玉県川口市仲町10番33号
- ・総戸数：12世帯
- ・竣工：2022年3月18日

神奈川県秦野市役所へ衛星通信Wi-Fi導入



＜現状＞

- ✓ 現在、市役所では市民向けのフリーWi-Fiを提供中
- ✓ 災害時のBCP対策として衛星を用いたインターネット回線を検討

複雑な手順を踏むことなく、簡単に接続できるWi-FiのBCP対策へのニーズ拡大
 災害時に利用できる市民向けフリーWi-Fiの構築

衛星通信Wi-Fi



CosmicWi-Fi®

Powered by  **Fibergate Inc.**
 株式会社ファイバゲート

- 当社提供のWi-FiNex、FGN1300wをCosmicWi-Fiに接続
- フリーWi-Fi使用者は所有端末から本人認証でスムーズな接続が可能

**BCP対応衛星通信Wi-Fiの
 公的機関導入のモデルケース**



- 導入先名：秦野市市役所本庁
- 設置台数：CosmicWi-Fi アクセスポイント4台
- 2022年3月末までに設置完了予定

学校法人 東洋大学の4学生寮 計579戸にレジデンスWi-Fiの導入決定

東洋大学

- ✓ コロナによる影響で、非対面(オンライン)授業を導入
- ✓ 使用者の増加に伴い通信環境の再構築を検討
- ✓ 通信環境の改善、入寮者対応業務の負担削減
ニーズ拡大



- ✓ 最新規格Wi-Fi6でのサービス提供
- ✓ 自社正社員によるサポートセンターの4か国語対応
- ✓ 無償保守、メンテナンス、アップグレード補償
- ✓ 自社製品開発によるコストパフォーマンスの高さ
- ✓ 他大学への導入実績

レジデンスWi-Fiの向け先拡大に注力
 新/既築アパートから
 より多様なレジデンス施設へ



- 大学名：学校法人 東洋大学
- 導入対象学生寮総戸数：579戸
 - ・[新築]川越体育会合宿所F棟 72戸
 - ・[新築]AI-House HUB4 354戸
 - ・[既存]アスリートビレッジ棟140戸 (292箇所)
 - ・[既存]相撲部合宿所 13戸
- Wi-Fiシステム総提供箇所：731箇所



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

Appendix



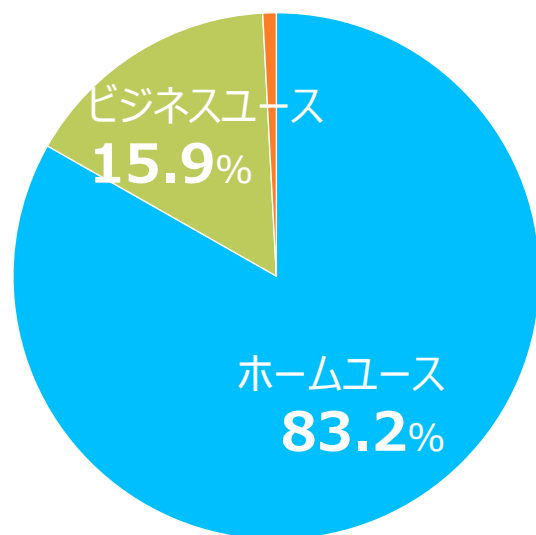
**通信機器の開発・製造から電気通信サービスまで、
一貫して手がける（通信系キャリア以外の）
独立系Wi-Fiソリューション企業***

***独立系公衆無線LAN 事業者**

公衆無線LAN(Wi-Fi)アクセスサービス分野で、総務省（総合通信基盤局事業政策課）
管轄業者かつ提供区域が全国の業者は、現在15社で、当社は大手キャリアと肩を並べる存在

- 2つの主要事業を展開。主力はレジデンスWi-Fiで、売上構成は83.2%（2021/6期）
- 高採算の「顧客PB化支援」（当社は黒子として貢献）に注力

売上構成内訳



2021/6期実績

ホーム ユース事業



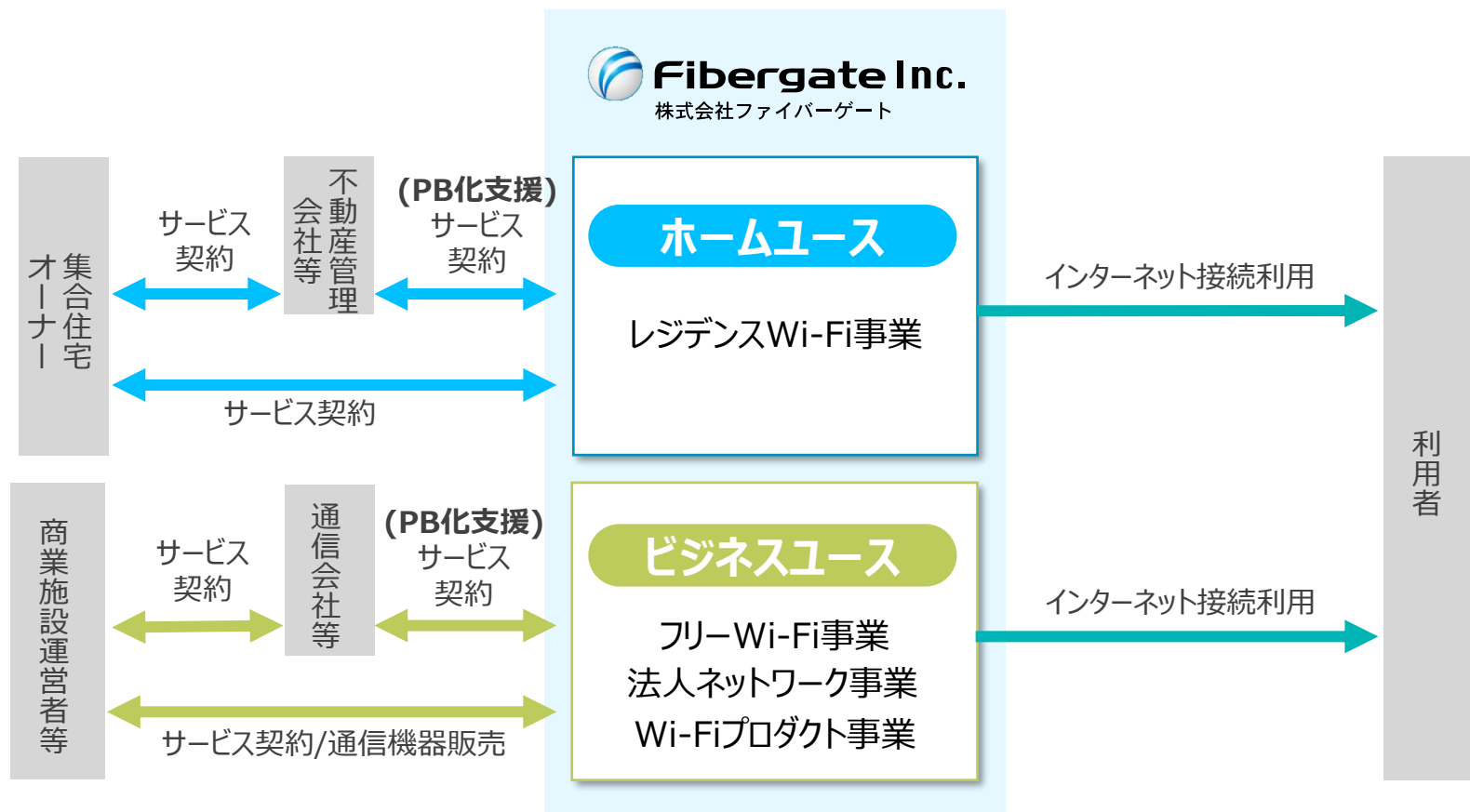
- ・マンション・アパート向け全戸一括インターネット接続サービスの提供
- ・顧客は集合住宅オーナー



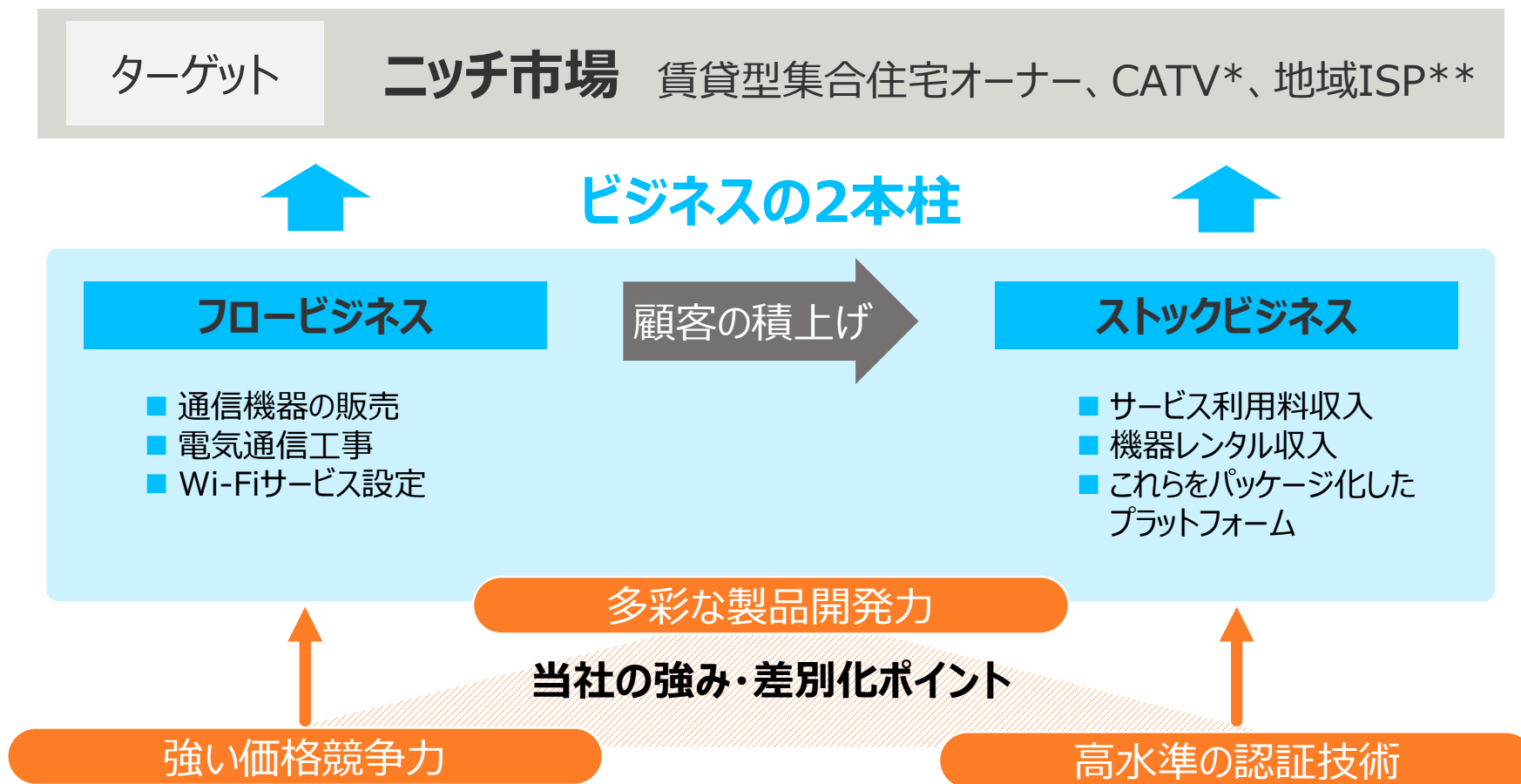
ビジネス ユース事業

- ・フリーWi-Fi事業(観光地、商業施設向け)
- ・法人ネットワーク事業
(インターネットプロバイダサービスなど)
- ・Wi-Fiプロダクト事業
(通信機器の製造販売)
- ・顧客は観光自治体、商業施設などのロケーションオーナー

- 金銭報酬はサービス契約先より受領。インターネット接続利用者の金銭負担はなし
- 「顧客のPB化支援」が主力



- ニッチ市場に向けて、フローとストックの2本柱を用意
- 当社の差別化ポイントは、「製品開発力」、「価格競争力」、「認証技術」の3点



*CATV : Cable Television。光ケーブルなどを用いてテレビ放送やインターネット接続、電話などのサービスを提供する企業

**ISP : Internet Service Provider。インターネット接続の電気通信役務を提供する電気通信事業者

Forward to “Alternative Carrier”

～全ての通信のゲートウェイを目指して～

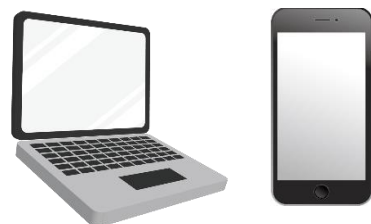
4G/LTE/5G



衛星通信



Wi-Fi



ビフォーコロナの世界

Wi-Fiは“集客ツール”

アフター/ウィズコロナの世界見通し

Wi-Fiは生活必需の“インフラ”へ

快適・安全な通信環境
大容量通信
安価・利便性高いソリューション
へのニーズは一層拡大へ

年	内容
2000	➤ 国内、国際電話サービスの加入取次を目的に仙台市若林区に会社設立
2003	➤ 札幌市中央区に本社移転 ➤ 複数拠点企業のネットワーク構築、Webでのブロードバンド回線販売を主業とする
2004	➤ レジデンスWi-Fi事業を開始
2005	➤ Wi-Fiによるブロードバンド化サービスを開始
2006	➤ PB化支援による集合住宅向けインターネット無料サービスを開始
2008	➤ マンスリーマンション向けインターネット接続事業を開始
2009	➤ フリーWi-Fiサービス事業を開始
2013	➤ コンピュータウェアの企画開発及びインターネット回線取次を担当する子会社NOISを設立
2014	➤ 当社開発通信機器の販売事業（Wi-Fiプロダクト事業）を開始 ➤ PB化支援による店舗・商業施設向けWi-Fiサービスを開始
2015	➤ 電気通信工事業認可（北海道知事許可）を取得 ➤ 台湾に100%子会社・飛博網通技股份有限公司を設立 ➤ 電気通信事業法に基づく電気通信事業の登録免許を取得
2016	➤ 経営革新計画企業に認定
2018	➤ 東京証券取引所マザーズ市場に上場 ➤ 株式分割（1株→2株）実施
2019	➤ 東京証券取引所第一部に上場市場変更 ➤ 札幌証券取引所に上場 ➤ 株式分割（1株→2株）実施
2020	➤ プロダクト開発子会社FG-Lab設立 ➤ 法人向け通信サービス事業等を行う子会社BizGenesisを設立
2021	➤ 不動産関連事業を行う子会社FGスマートアセットを設立 ➤ 再生可能エネルギー事業を行う子会社オフグリッドラボを設立

決算年月		2017/6期	2018/6期	2019/6期	2020/6期	2021/6期
売上高	(千円)	2,787,387	3,977,485	5,446,396	7,424,440	8,491,521
経常利益	(千円)	334,836	510,171	886,999	1,215,285	1,543,702
当期純利益	(千円)	209,331	312,312	550,888	722,848	1,019,439
資本金	(千円)	54,300	401,372	426,896	479,674	488,727
発行済株式総数	(株)	56,200	4,761,900	9,807,400	20,402,400	20,487,800
純資産額	(千円)	413,480	1,380,144	1,981,638	2,710,216	3,677,370
総資産額	(千円)	3,054,242	4,364,688	5,311,858	6,984,445	9,397,635
1株当たり純資産額	(円)	147.15	144.92	202.06	133.52	180.40
1株当たり当期純利益金額	(円)	75.92	81.62	57.60	36.19	50.11
自己資本比率	(%)	13.54	31.62	37.30	38.80	39.13
自己資本利益率	(%)	68.15	34.82	32.77	30.81	31.92
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	544,165	808,563	1,345,616	1,732,861	1,710,762
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲836,777	▲1,328,849	▲1,389,763	▲2,071,715	▲2,256,821
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	313,955	868,783	▲15,102	699,639	1,326,709
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	773,093	1,118,034	1,058,574	1,415,418	2,196,433
従業員数	(人)	115	141	159	180	221

ご清聴ありがとうございました。

＜ 見通しに関する注意事項 ＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営管理本部 IR担当
0120-772-322
fgir@fibergate.co.jp